



波濤

第 1 1 号

発行 放送大学同窓会
神奈川学習センター支部
編集 総務委員 会
責任者 稲葉恒夫
発行日 平成8年2月29日

未来を切り開く

新しき力に期待して

神奈川学習センター支部

稲葉恒夫

規約により本年は役員の変更が行われる年であります。新しき力が当支部の一層の発展をもたらすものと信じますので、各位の積極的な役員会への参加をお待ち致しております。

会員数の増大していくなかで、本年度から支部の運営は会員各位の年会費等で賄う事になりました。予算書作成に当たりまして、各位の協力がどの程度得られるか大変不安でありましたが幸いな事に三百余名の方々の納入があり、又多額の寄付も頂戴いたしましたので、支部行事の施行に関しては支障なく実行出来るものと思われまして、わざわざ郵便局にお出かけになつて会費を納入して下さった各位、また多額のご寄付をして下さった方々に厚く御礼を申し上げます。

これらの事は「それなりのしつかりした仕事をしろ」と言う事であると受け止められますので、改めて責任を感じる次第であります。

『魅力ある同窓会』をめざして、本年度も色々な行事を企画し実施してま

いりましたが、会員各位の参加がいまひとつです。三月二十四日には本年度の締めくくりとして『早春の鎌倉散策』を計画致しましたので、多数の参加をお待ちしております。

当支部が発足して五年の歳月が経過いたしましたし、役員の変更等を含め各種の行事も経験してまいりました。これらの経緯を年譜形式に取りまとめ、会員名簿を加えて『波濤特集号』の発行を企画いたしました。

会員名簿等の発行につきましては予算措置を講じておりませんでした。ご寄付もあり予算的に支障も来しませんが、この件にしまして、よろしくご了承下さるようお願いいたします。冒頭にもお願い致しましたが、会則により役員任期は三期に規定されております。当初からご苦勞くださった何名かの方が、今期限りで去っていきまます、これらの方々を代わって、未来を切り開いて行く新しい力をお待ちしております。

奮って役員会にご参加下さいますよう、皆様方のご協力を重ねてお願い申し上げます。

支部年会費納入

状況のご報告

総会に於いて今年度より、支部年会費(千円)の納入が決議されました。今年度が初めてのことで、会費納入状況をご報告致します。

振込用紙(料金受取人払い)は、平成七年九月発行の『波濤』に同封しましたが、平成八年一月現在の納入者数は、支部会員総数五百二十九名中三百十名でした。

また千円以上の納入金は、寄付金として処理させて頂いて居ります。

尚、振込用紙は毎年九月発行の『波濤』に同封する予定ですが、会費納入は年間を通じて受け付けて居ります。

今後とも一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

(会計)

《支部年会費納入状況》 (平成7年9月～平成8年1月)

会費納入金(310份)	¥310,000
寄付金(7件)	125,000
計	435,000
振込料	▲16,650
差引収入	¥418,350

会費振込先 郵便局
口座番号 00270-1-55585

日本フォスター・プラン協会 による講演と勉強会開催

十月十九日、神奈川学習センターに(財)日本F・P協会下ナー・サービスの丸山和子氏をお招きして、フォスター・プランのシステムと取り組み、今後の活動方針などについて講演してもらった。

ビデオを交えた分かりやすい説明に、参加者からは熱心な質問も出て充実した勉強会となった。

また、フォスター・プラン実行委員会では、ゲアテマラのピラールちゃん(写真)をチャイルドに迎え、引き続き三人の支援を活動方針とすることに決定した。



これまでこの活動に賛同しご寄付下さいました会員の皆様に感謝すると共に、ここに改めて援助資金のご寄付をお願い致し、振込用紙を同封させて頂きますので、よろしくご協力をお願い申し上げます。

尚、講師の丸山氏より講演の抄録を頂きましたのでその一部をご紹介します。(F・P実行委員会)

講演 西女 日 丸山和子氏

ドナー・サービスは機関紙の編集を始めとして、ペアレントの方の質問にお答えしたり、現地訪問の手伝いや、ペアレント・レターの発送業務等を行っている部署です。

皆様には放送大学同窓会神奈川のお名前です、すでにタイ・ケニア・ゲアテマラの三人のフォスター・チャイルドをお持ち頂いております。この場をお借りして感謝申し上げます。皆様はフォスター・プラ

ンに参加されてから今年で五年目を迎えられたと伺いました。おかげさまで日本のフォスター・ペアレントの数も約五万七千人となり、今や日本国内のNGOとしては最大クラスの規模となりました。現在、世界中にはフォスター・プランのようなNGO、民間援助団体が数多く存在しています。その援助方法を大きく二つに分けますと、緊急援助と開発援助になります。

難民救済や今年一月に起きた阪神大震災に対する寄付などは緊急援助の例で、一刻を争う人命救助が大きな目的となります。一方、フォスター・プランが行うような開発援助はある地域に時間をかけて継続的な支援を行い、地元の住民が将来は経済的に自立して自らの生活環境を改善し、貧困からの脱却が可能となるように計画するものです。活動地域の住民に依頼心を抱かせないためにも、援助金は「自由に使える現金」として住民に渡すことはありません。

フォスター・チャイルドは親善大使のような形で特定のペアレントと手紙等を通じて交流を持ちます。

同時にチャイルドとその家族は、フォスター・プランが行う保健衛生・教育・コミニティ開発・人材技術開発の大きく分けて四つの分野でのプロジェクトに参加し恩恵を受けます。

フォスター・チャイルドは家族の経済状況・家族構成等の基準で選ばれた子どもですが、特に優秀な子どもという訳ではなく、中には学校に行っていないチャイルドもいます。

チャイルドやその家族にとってフォスター・ペアレントからの手紙は『天国から届いた手紙』のようなものだと言ったことがあります。彼らにとって、外国に自分のことを思っている人があるというのと自分が励みになっているようです。

フォスター・プランの活動地域では識字率が非常に低いことが大きな問題の一つです。これは教室や教師の数が足りない、設備が悪、教科書がない、子どもが働き手として期待されている、学校が遠い等の理由があげられます。またフォスター・プランの活動地域はトイレ等の衛生設備、医療施設が整っていないところが多いです。

このような状況の中で、フォスター・プランは保健センター・トイレの建設、植林、成人識字教室、収入増加支援等、地域住民一人一人が生活向上をしていくよう支援しています。

フォスター・プランは人々の権利と尊厳が守られる社会において、全ての子どもたちが能力を発揮できるように世界を実現することをビジョンとして掲げています。そのビジョンに果たしなく近づくために、今後も努力してまいりたいと存じますので、今後とも皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

箱根彫刻の森 美術館を訪ねて

石崎芳子

青い空、色づき始めた箱根の山々、そのもとに広がる緑の大地に横たわる暖かく力強く豊かな彫像の数々……今も脳裏に焼き付いて目に浮かんでくるこの美術館の印象です。そしてもう一つ、初めて参加した私を迎えて下さった先輩方々の飛び交わす快活な会話が

“平成8年度支部活動報告とお誘い”

早春の鎌倉散策

“自然に親しみながら
古寺を巡る一日”

日 時： 3月24日(日)10時～16時頃まで
 雨天中止
 コース： 鎌倉駅 乗 → 朝比奈切り通し(徒歩) →
 三郎滝 → 十二所神社 → 光触寺 →
 明王院 → 浄妙寺 → 報国寺 → 杉本寺
 → 鎌倉駅
 (拝観はご希望により選択します。拝観料各自負担)
 集合場所： JR鎌倉駅西口(裏口)の改札を出て右
 側の時計台の前
 放送大学のマークのついた本が目印です。
 集合時間： 10時(時間厳守)
 昼食代： 1,000円程度
 申込締切： 3月17日(日)
 申込先： 糸井アサノ ☎045-701-2507(午後9時以降)
 (幹事) ☎236 横浜市金沢区釜利谷西3-31-16

越川敏子 ☎045-253-1305
 ☎231 横浜市中区山田町8-2
 モアレ山田町1008

- ◎ハガキには必ず☎をご記入ください
- ◎雨天中止です!! はっきりしない時は、当日朝(7時半～8時頃に)幹事に☎でご確認下さい。
- ◎かなり歩きます。歩きやすい靴でお出かけ下さい。
- ◎前号予告の『大船フラワーセンター見学』は、都合により変更しましたのでご了承ください。

この旅の思い出として私の心に残りました。
 十月二十二日、小田原駅に集合したのは男性二名女性六名でした。寂しいなと感じましたがグループで行動するには良い人数でした。
 十一時過に美術館の門をくぐり、本館から屋外展示場の作品を一つ一つ鑑賞しているともう正午を過ぎてしまい、お弁当を食べている人達をちらちらと横目に見ながら、私達はキャンディを口に

入れて次々と進み、絵画館・ピカソ館を回ってレストラン・コンポートに着いた時は二時近くになっていました。ここでブドウ酒で乾杯して、雄大な箱根の自然を眺めながら食事をして語りました。
 三十分美術館を出て(解散予定でしたが)千条(ちすじ)の滝まで足を伸ばしました。小涌谷からわずかな距離で、静まった森の中に滝は優雅に流れ落ちていました。
 五時過、小田原駅に戻

りお茶と軽食をいただき、お土産の干物を買って帰り路につきました。
 いつも追われるような気持ちでせわしく学んできた私は、この九月に卒業したばかりでこのような楽しい旅で同窓生の皆様と交流ができて大変幸せでした。
 もっともっと多くの皆様が、ご都合をつけて同窓会活動に参加されますようお勧めします。暖かい交わりの中で共に生きる喜びが感じられました。



新山下地域 ケアプラザ を見学して

九月九日(土)、同窓会会報に載っていた福祉施設の見学会に参加した。当日は十一名の参加者でJR桜木町駅集合。そこからバスで本牧車庫行に乗り十二分十三分の所に『新山下ケアプラザ』がある。
 この『地域ケアプラザ』はデイサービスと地域交流活動の場を提供する為の

施設である。デイサービスに対しては、五名のスタッフで一日二十名までの虚弱な高齢者を受け入れて健康チェック、入浴、昼食、レクリエーションなどのサービスを提供していた。
 また自宅までの送り迎えが付いていて一日五百円と安い。利用は週一回なのだが、利用待ちの人は通常六十名もいるという。この様な『地域ケアプラザ』は、横浜市に二十カ所ある。しかし利用時間の制限が付いている。これに対し、二十四時間体制の地域ケアセンターは、西区浅間台に一カ所だけである。この様な施設は最近建てられてきたが、デイサービスを順番待ちしている人が多いことを考えると全体的にはまだまだ不足しているといえる。
 帰り際には、特別養護老人ホームの『新山下ホーム』を見学させていただいた。入所予定員五十名、ショートステイ二十名規模である。しかしこちらも順番待ちとのこと。
 『地域ケアプラザ』でデイサービスの一日をくつ

ろいだり、お誕生日会をし
てもらったりしていた方々、
老人ホームで日々の不安を
気にする必要がない環境を

『浜口先生を囲み組織に ついて考える会』に参加して

押山睦生

太郎君と花子さんの会話
から、当日の会の様子をご
紹介しましょう。

花子「同窓会本部の主催
で何か集まりがあったって
聞いたけど」

太郎「うん、今回は神奈
川担当なので、神奈川学習
センター所長の浜口先生を
お招きして、十月二十九日
の日曜日に中華街の『大上
海』で開かれたんだ」

花子「どういう主旨？」
太郎「同窓会としては各
学習センターの先生方と意
志の疎通を図ると同時に、
同窓会の活動をより良く理
解してもらう必要があるん
だね。そこで浜口先生を囲
んで同窓会組織について一
緒に考えてみようというこ

手にした方々を見ていた
ら、この様な施設はもつ
と増やして行くべきだろ
うと思った。

とになったんだ。こうい
う会は東京第二学習セン
ターについて今回が二回
目ということだったよ」

花子「出席者は？」
太郎「浜口先生はじめ、
同窓会本部から別所会長
以下七名、神奈川支部か
ら稲葉会長以下八名で計
一六名だった」

花子「同窓会としても、
卒業者の入会率を増やす
問題や会費の問題、学習
センターの全国化を控え
ての組織の在り方など問
題山積のようだけど、ど
んな意見が出たの？」

太郎「出席者が自己紹
介をかねて、同窓会の現
状や在り方などを話した
んだ。その中では全国化
に向けて同窓会はどう在

るべきかなどという意見が
多かったと思うよ。中には
『同窓会の活動は苦勞ばか
り多くてちっとも面白くな
い』などと泣きを入れる役
員もいて、同窓会活動でい
ろいろ苦勞している様子が
伺えるような意見もあった
ね」



花子「その他には？」
太郎「ある役員が『卒業
生にも学習センターの図書
室を使わせて欲しい』と頼
んだ所、浜口先生から『卒
業生は、所長の特に認める
者に該当するので使用はO
Kです。受付で一言ことわっ
て下さい』との解答があっ
た。生涯学習をモットーと
する僕たちにとっては朗報
だね」

花子「浜口先生の印象は
どうだった？」

太郎「とても素敵でフ
ンも多いうって聞いているよ。
僕たちの言うことも良く聞
いて下さって、同窓会に対
する理解をかなり深められ
たんじゃないかな。もっと
も大学側としても全国化の
問題は未知なことが多くと
ても大変だとおっしゃって
いたけど」

花子「出席した感想は？」
太郎「このような会はと
ても有意義だと感じたね。

同窓会としても大学と一体
となって、放送大学を一層
もり立てて行かなければな
らないからね」

花子「ご苦勞様でした。
これからも頑張ってくださいね」

第六回支部連 絡協議会報告

平成七年十一月十一日、
『支部連絡協議会』が、群
馬学習センター支部主催に
より伊香保で開催された。
今回は全支部の参加があ
り、神奈川学習センターか
らは会長・副会長が出席。
前橋駅から水と緑豊かな
街を散策し、明るい雰囲気
の群馬学習センターを見学。
清野所長からも暖かい歓迎
を受けた。

主な協議事項は

一、支部行事について
一、会報について
一、今なぜ支部中心か
一、大学との懇談会に関す
る報告などであった。

また会議終了後は、本部
新旧理事の親睦旅行も兼ね
て、徳富蘆花が『不如帰』
を執筆した千明仁泉亭での
一泊旅行となった。
尚、群馬学習センター支
部の皆様にも大変お世話に
なりました。

(星 礼子記)

放送大学を

卒業して

衛藤裕美

卒業した今、一つのことをやり遂げたという達成感と、やろうと思えば何でも出来るという自信が持てたという喜びで一杯です。

短大を卒業後、社会人となり仕事にも慣れて来た頃何か仕事に役立ち、かつ自己実現につながることを始めたいと思い放送大学に入学しました。

入学して感じたことは、専門の教授陣が素晴らしいということ。大学の枠を越えてその道の権威の先生方に学ぶことができ、能動的に学ぶ楽しみを得られました。同時に、中間試験、学期末試験の苦しみを味わい入学したことを後悔したこともありました。

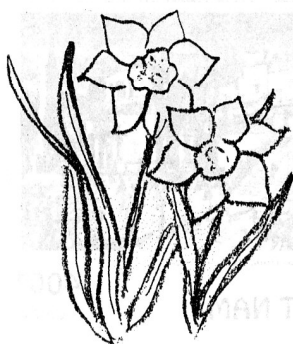
会社の上司や同僚の理解とサポート、そして充実した福利厚生制度（フレックステキ制度、完全週休2日制、有給休暇制）のおかげで無事卒業することができたと思います。

勉強以外の面でも、学生が多様性に富んでいるのでいろいろな考え方や意見が

聞けて面白いと思います。あらゆる年代、あらゆる立場の方が学びたいという意欲のもとに集まっているのですから。

わたしと同時に入学した『人間の探求』専攻の母と初めて同じ授業を取ろうと第一学習センターの『民族音楽学』の授業に参加し、授業最後のコンサートを通じて他の学生と交流でき、面接授業の楽しさを体験しました。その後先生のもとに『音楽自主ゼミ』が発足され、会報の発行や、5月にある下馬祭で民族楽器の展示やその楽器を使つてのコンサートをしたりと、充実した学生生活を過ごしました。

これら学生生活を通して得た経験は、とても有意義で私にとって貴重な財産となりました。今後あらゆることに前向きにチャレンジしていく活力になつていくと思ひます。



放送大学

症候群

南博

生涯学習という言葉が世に出て久しい。放送大学を一度卒業して再入学する人達のことを言つたものであるが、最近あまり耳になくなくなった。

私が放送大学に入学したのは、第二の人生のスタートと同時にあった。今から四年前、国立教育会館虎ノ門ホールで香月学長及び鳩山文部大臣らの祝辞を戴き、四九五名の仲間と卒業した。専攻が『生活と福祉』で特論指導は豊福先生に受けた。ゼミ仲間は八代市から小原さん、座間市から森脇さんと三人で、主に神奈川県学習センターで行われた。千葉から来られる小原さんの交通も考慮して東京で行つたこともある。

特論の資料を収集したその年は、各地域の図書館、市や県の社協に向いて福祉に関する図書を観覧したもののである。資料収集の環境として、老人福祉センター横浜戸塚柏桜荘で開講された『高齢者介護講座』で、黒一点として体験学習を行っ

たことがある。今ではそのことが縁とでも言うのか、現在柏桜荘の職員として勤務中である。

ここには、高齢者介護を行うデイケアサービスと健康者に教養趣味娯楽に関するサービスをを行う老人福祉センターの二つの機能があり、英会話・書道・鎌倉彫り・カラオケ・健康体操など十五の教室が半年サイクルで開設されている。私も職員になった今でも社交ダンス・囲碁など毎回仲間と楽しんでる。ちなみに英会話の鈴木喜久子先生は、放送大学で『生活と福祉』を専攻した同窓の人である。

特論指導を受けた豊福ゼミ仲間が集まって苦労話や先生をねぎらいたいものであるが、先生は現在地方勤務とか伺つていて残念である。

四年前『放送大学症候群』の患者で再入学し、この春『人間の探求』専攻を終え幕張メッセで小尾学長や与謝野文部大臣らの祝辞を受け、二、〇二九名の仲間と卒業した。

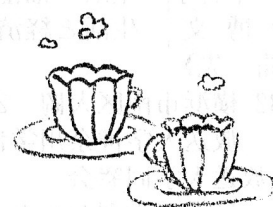
放送大学を生涯学習の場と決め現在『自然の理解』にチャレンジ中である。校歌の歌詞の如く「知は力」

である。自分の無知な分野の知識を得ることは新たな歓喜である。

卒業以来、神奈川県支部同窓会の役員を努めているが、勤務の都合で例会にも欠席しがちなので、代役できる人をお願いしたいと思つている。

また会員も増加して来ているので各部担当役員の増加を図つては如何であらうか。

サークル以外の学生同士の交流は少ないが、同窓会の役員を通じて出会うことができたことはとても幸いであり、これからも生涯学習を通じて同窓会を含め新たな交流を図りたいものである。



“ハノイから の手紙”

(生活編)

出口仁美

お元気ですか？

緑色のパッチワークの様な田畑の広がりを眼下に見何かしら懐かしさを感じてハノイのノイバイ空港に降り立ったのが、平成七年の一月でした。

追い越すときの合図に鳴らす車のホーンの騒音、通勤通学に利用するバイクや自転車の、洪水のような流れの横断にも何とか慣れました。左右に注意して、走らず止まらず同じスピードで歩いて渡るのがコツです。やはり今も命がけには違いませんが。

さて、私の発見したハノイの三大不思議をお教えしましょうか？

禿げた人・白髪の人が少ないこと、そしてメガネを掛けた人がまじらない事です。私が外国人だと分かるのはメガネのせいだと言われたことがあります。実際彼らは目が良いそうです。こちらの女性は漆黒では



Làng Khái Định, Huế - Việt Nam
400đ
BUU CHÍNH

ありませんが、ストレートの柔らかいきれいな髪をしています。私もメイドに教えてもらって、市場でハーブなどの束を千ドン(約一〇円)で買ってきて、その茶色い茹で汁で洗髪しています。最後にチャインというスダチに似た果実の搾り汁を髪にかけると、しっとりとして気持ちのよいものです。

この夏、女性の間には小花模様のワンピースが流行りました。それに造花のついた帽子を被り、ロングヘアを風になびかせながらバイクに乗っている姿はともエレガント。

3年前迄、白のブラウスに黒のズボンだけだったというのが信じられない程の華やぎでした。

一般的にハノイの女性は、お洒落で花が大好きです。

束ねた髪の間には花を挿してみたり、デザートのシロップの中に匂いの良い花を浮かべて、味と同時に香りも楽しんでる生活は、貧しいながらも、私たちが忘れてかけている潤いと感性の豊かさが感じられます。

断水と停電が当たり前という不自由な日常にもめげず、勤勉で前向きに生きていく姿や、日毎に変わり行く町並みを見るにつけ、彼らの明るい将来を、ハノイびいきの私としては願わずにはいられません。

では又お便りします。

事務局からのお願い

『会員名簿』の発行に関し、下記事項についての情報をお待ちしています。

記

- 1、会員の氏名、住所について
お手元に届くラベルなどで、お名前や住所等に誤りや記載漏れがある場合。
- 2、物故者の連絡について
知人の物故者情報については、より慎重にまた正確に処理を行わなければならないため『遺族からの情報』で物故確認ができていない場合のみお知らせ下さい。
- 3、転居先不明者について
下表中に、現住所をご存じの方がいらっしゃる場合。

氏名	専攻	卒業年
伊藤園子	発達と教育	平成1年
曾我和雄	人間の探求	1
高巢久枝	人間の探求	3
須田政瑞	人間の探求	4
岩田春子	人間の探求	5
陰山京子	社会と経済	5
岸本早智子	生活と福祉	5
垣内博文	生活と経済	6

《連絡先》

〒232 横浜市南区大岡 2-31-1
放送大学神奈川学習センター内
放送大学同窓会
神奈川学習センター支部事務局

新役員募集

神奈川学習センター支部では、平成八年度役員(総会後任期二年)を募集しております。

ご協力下さる方は左記までご連絡下さい。

多くの方の立候補をお待ちしております。

《連絡先》
事務局・五十嵐
☎(045)
84618036

編集後記

三月ひなの月。満開の桃の花が街を優しく彩っています。水ぬるみ、草花の芽吹く春ももうすぐそこに。

『波濤十一号』お楽しみ頂けましたでしょうか。

“ハノイからの手紙”をお寄せ下さった出口さんには、三回程度の連載をお願いしました。会員の皆様に親しまれる会報にするためにも、フレッシュな企画、ご希望などお待ちしております。

(森西)